

群 教 セ	G11 - 03
	令2.275集
	特活 - 小

児童の自己有用感が高まる学級活動の工夫

学級目標の実現を目指した個人のめあての振り返りと、互いを認め合う「ONE TEAMカード」の活用を通して

特別研修員 千木良 昌計

研究テーマ設定の理由

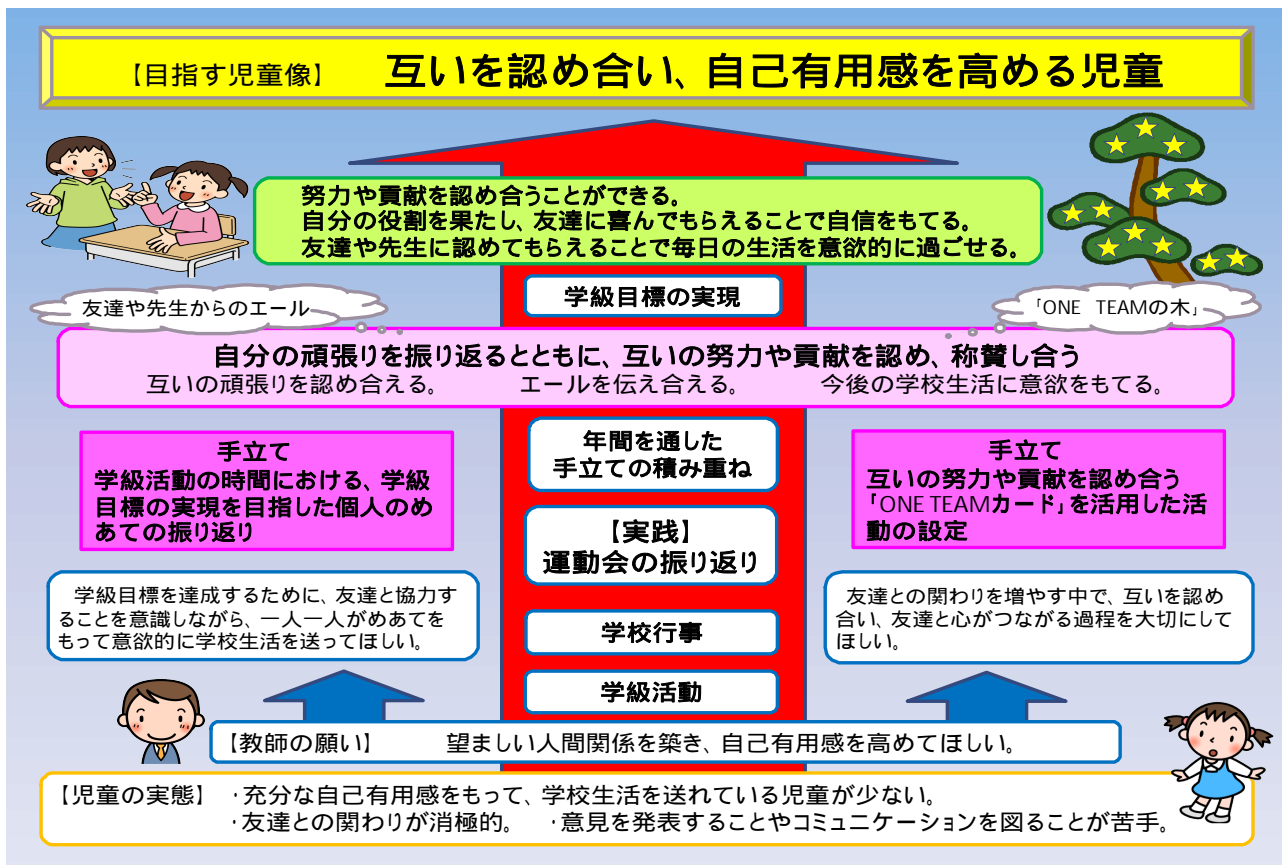
小学校学習指導要領解説特別活動編の目標には、「互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通し、(中略)資質・能力を育成することを目指す」と示されている。また、学級活動は、「学級生活の充実と向上を目指し、他者と協力したり、個人として努力したりしながら自主的、実践的に取り組むことにより、活動することの楽しさや成就感、達成感を得たり、自己有用感を高めたりすることにつながるもの」とされている。

研究協力校においては、友達との関わりが消極的で、意見を発表することに苦手意識をもつ児童が多く見られる。そこで、友達から承認されたり受容されたりする経験を重ね、望ましい人間関係を築くことにより、自己有用感を高める必要性を感じた。互いに信頼し、支え合おうとする人間関係を築くためには、互いの意見を認め、励まし、勇気付けるなど、一人一人の考えや個性を大切に活動が必要であると考えた。

そこで、本学級の学級活動において、学級目標の実現に向けて一人一人がめあてを設定し、その目標に対する努力や貢献を認め、称賛し合う活動を行うこととした。このような努力や貢献に対しての認め合いを積み重ねることによって、児童一人一人の自己有用感を高めていくことができると考え、本研究テーマを設定した。

研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

本学級の学級活動において、学級目標の実現に向けて一人一人がめあてを設定し、その目標に対する努力や貢献を認め、称賛し合う活動を行うこととした。このような努力や貢献に対しての認め合いを積み重ねることによって、児童一人一人の自己有用感を高めることができると考え、以下のように手立てを設定した。

手立て1 学級活動の時間における、学級目標の実現を目指した個人のめあての振り返り

学級活動の中で、学級目標（「みんなでチャレンジ ONE TEAM」「みんなで協力 ONE TEAM」「みんなで伝え合う ONE TEAM」）の実現を目指すため、事前の活動として学級活動や学校行事に向けた個人のめあてを設定する。設定した個人のめあてに対して、友達や教師から励ましのエールをもらい、意欲をもって様々な活動に取り組めるようにする。その後、学級活動の時間において、学級目標を意識した個人のめあての振り返りを設定する。様々な行事や活動の中で、自分が頑張ってきたことを認識し、友達のエールに支えられながら、今後の学校生活に向けての行動目標を意思決定できるようにする。

クラスの友達と一緒に学級目標の実現に向かい、このような一連の活動をしていくことで、自己有用感を高め、学校生活への意欲をもたせるようにする。

手立て2 互いの努力や貢献を認め合う「ONE TEAMカード」を活用した活動の設定

グループ内交流で、互いの努力や貢献を認め合う「ONE TEAMカード」を共有する活動の場を設定する。友達に自分の努力を知ってもらい、友達からエールをもらうことで、その目標に対する努力や貢献を認められ、自己有用感を高めることができる。また、自己有用感の高まりと共に、今後の学校生活への意欲をもたせるようにする。このような手立てを積み重ね、「ONE TEAMカード」を蓄積することで、個人としての努力や貢献、集団の一員としての活躍の場面を意識することができるようにする。このような互いを認め合う一連の活動をしていくことで、自己有用感を高め、学校生活への意欲をもたせるようにする。

研究のまとめ

1 成果

- 学級活動の時間において、学級目標の実現を目指した個人のめあてを振り返ることで、友達と協力することの大切さを意識したり、学校生活に対して意欲をもったりすることにつながった。
- 「ONE TEAMカード」を活用することで、学級活動や学校行事における互いの努力や貢献を認め合ったり、称賛し合ったりすることができ、多くの友達と意欲的に関わることができた。
- 自分の頑張りを振り返ったり、互いに「ONE TEAMカード」でエールを伝え合ったりすることで、「これからも頑張ろう」「友達から必要とされている」といった達成感、充実感を味わうことができたことは、自己有用感の向上につながった。
- 年間を通して手立てを重ねることで、「目標が達成できたね」「これからもONE TEAMで頑張っていこうね」といった思いやりをもったエールの記述が多く見られた。また、日々の児童同士の関わりも増し、コミュニケーションをとったり、思いやりの言葉をかけたりできるようになった。

2 課題

- 学級目標達成のための「ONE TEAMカード」であることから、1年間の見通しをもった活動の設定や児童の具体的な目標設定の難しさがあった。教師の目指す児童像を明確にし、児童が見通しをもった年間活動ができるよう計画を立て、自主的・実践的な取組ができるようにしたい。
- 「ONE TEAMカード」に書くことを明確に伝えないと、話合いに活用できる情報を得られないことがあった。「ONE TEAMカード」に書く内容や意図を分かりやすく正確に説明する必要がある。
- 「ONE TEAMカード」において、児童の記述する内容が多くなり、書く活動の時間が長くなってしまった。「ONE TEAMカード」に記載されている内容の個人の振り返りや友達からのエール、個人の意思決定の時間を2時間に分けて実施することも考えられる。

実践例

1 題材名 「がんばった運動会～運動会をふり返ろう～」(第5学年・2学期)

2 本題材について

本題材は、運動会を終え、自分が設定しためあての振り返りをしたり、その振り返りに対して友達から励ましの言葉をもったりする活動である。児童は、運動会に向けて、日々の練習や委員会ごとの準備に取り組んだり、運動会本番では競技や片付けに取り組んだりしていくことになる。そのような中で、学級目標を達成するという目標に向かってONE TEAMとして協力していくことは、児童が認められる喜びを味わい、学級や学校に貢献しようとする意欲の高まりにつながる。同時に、自己有用感の高まりが児童一人一人の成長につながると考えた。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し、実践した。

目 標	互いの努力や貢献を認め合う「ONE TEAMカード」を共有する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 学級目標や運動会に向けた個人目標に対する達成度を伝え、認め合う中で、自己の成長や変容を把握し、自己への理解を深める。(知識及び技能) イ 学級目標や運動会に向けた個人目標を振り返ったり、互いの思いを伝え、互いの努力や貢献を認め合ったりする。(思考力、判断力、表現力等) ウ 今後の学校生活において、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、友達と協力して目標の達成を目指しながら主体的に行動しようとする。(学びに向かう力、人間性等)		
評 価 規 準	(1) 学級の友達と協働する様々な学級活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、よりよい合意形成や意思決定の方法を身に付けている。(知識及び技能) (2) 集団の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりしている。(思考力、判断力、表現力等) (3) 自主的、実践的な学級活動を通して身に付けたことを生かして、学校における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。(学びに向かう力、人間性等)		
過程	主な学習活動	学級全体	計画委員
事前の 活動	1 問題を発見・確認する	1 問題を発見・確認する。 題材を設定する。 ・これまでの取組を振り返り、運動会の目的を考える。 問題を確認する。 今年はどうな運動会にしたいか、またそうするためにはどうすればよいかを考え、話し合う。 共通の課題を設定する。 クラスの運動会スローガンを決定する。 問題意識を高める。 ・話し合ったことから学級目標を受けた個人の目標を決める。 ・目標の達成のために運動会に取り組む。	
本時	2 解決方法等を話し合う	2 解決方法等を話し合う。 課題を把握する。 ・運動会のスライドショーを視聴する。 ・めあての確認を行う。 可能性に気付く。 ・学級目標を受けた個人目標に対する自分の振り返りを記入する。 ・「ONE TEAMスター」に自分の頑張りを記入する。	

	3 解決方法を決定する	解決方法等を見付ける。 ・友達が書いた振り返りを共有する。 ・友達の頑張りに対してエールを送る。 3 解決方法を決定する。 個人の意思決定をする。 ・学級目標達成のための努力事項を班で話し合う。 ・友達からの温かいエールをもらい、これからの生活への意欲をもつ。 ・班の話合いから個人目標の意思決定をする。
事後の活動	4 決めたことを実践する 5 振り返る	4 決めたことを実践する。 意思決定したことを実践する。 ・学級目標を軸にした年間の特別活動の取組を継続していく。 ・「ONE TEAMの木」を活用し、日々の実践に生かしていく。 5 振り返る。 実践を定期的に振り返る。 ・次の行事の目標を立て、実践を繰り返し行っていく。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時では、友達に認められているという喜びを感じながら意思決定することで、自己有用感を高め、今後の学校生活に意欲をもてるよう、次のような手立てを設定して活動を行った。

手立て1 学級活動の時間における、学級目標の実現を目指した個人のめあての振り返り

事前の活動として、学級目標（「みんなでチャレンジ ONE TEAM」「みんなで協力 ONE TEAM」「みんなで伝え合う ONE TEAM」）の実現を目指すため、学級活動の時間において、個人のめあてを意思決定した。その後、友達から個人のめあてに対するエールをもらい、そのエールを励みに運動会の練習や本番に臨んだ。本時では、運動会という大きな行事の中で、自分が頑張ってきたことを認識し、友達のエールに支えられながら、今後の学校生活に向けて意欲をもたせ、行動目標を意思決定できるようにした。クラスの友達と一緒に学級目標の実現に向かい、このような一連の活動をしていくことで、自己有用感を高め、学校生活への意欲をもたせるようにした。

手立て2 互いの努力や貢献を認め合う「ONE TEAMカード」を活用した活動の設定

本時では、個人のめあての振り返りを行った後、生活班でのグループ内交流において、互いの努力や貢献を認め合う「ONE TEAMカード」を共有する活動の場を設定した。運動会を終えて、自分の「よくできたこと・がんばったこと」について、友達からエールをもらうことで、その目標に対する努力や貢献を認められ、自己有用感を高めることができた。また、授業後に教師からも「ONE TEAMエール」をもらうことで、自己有用感の高まりをさらに大きくすることができた。このような互いを認め合う一連の活動をしていくことで、自己有用感を高め、学校生活への意欲をもたせるようにする。

4 授業の実際

(1) 事前の活動

学級活動の学級会において、クラスの運動会スローガンについて話し合い、合意形成を図った。これまでの取組を振り返り、運動会の目的を考えた。「今年はどうような運動会にしたいか」「そのようにするためにはどうすればよいか」を考え、話し合いを行った。話し合ったことから学級目標の実現を目指した個人のめあてを決め、「ONE TEAMカード(運動会にむけて)」(図1)に記入した。友達のめあてに対して励ましのエールを伝え合った。その後、友達からのエールを励みにして個人のめあての達成のために運動会に取り組んだ。

図1 「ONE TEAMカード(運動会にむけて)」

(2) 本時の活動

本時の活動の導入として、運動会のスライドショーを視聴したり、めあての確認を行ったりした。その後、学級目標の実現を目指した個人のめあてに対しての振り返りを「ONE TEAMカード(がんばった運動会)」(図2)に記入し、「ONE TEAMレベル」として自分のがんばりを星の数で評価した。また、友達が書いた振り返りを共有し、友達の頑張りに対してエールを伝え合った。その中で、「運動会とても頑張っていたね」「ONE TEAMレベルが星5個になるまで頑張れてすごいね」「これからも一緒に頑張ろうね」といったように、友達を思いやる励ましのエールが多く見られた。このような励ましのエールを伝え合うことで自己有用感を高めるようにした。さらに、今後の学校生活におけるめあてとなる個人の行動目標を設定するために、努力事項を班で話し合った。そして、班の話合いから個人目標の意思決定をした。本時の振り返りでは、「みんなからエールをもらってうれしかった」「エールもらったのでさらになんげしたい」「新しく決めた目標を達成したい」といった前向きな内容が多く見られた。授業後には、教師から児童一人一人の「ONE TEAMカード」に励ましのエールを書き、今後の学校生活に意欲をもたせるようにした。

図2 「ONE TEAMカード(がんばった運動会)」

(3) 事後の活動

学級目標の実現を目指した個人のめあてが達成できるように意思決定したことを日々の活動の中で実践していった。また、「ONE TEAMの木」(図3)を活用し、日々の実践の振り返りを行っていった。「ONE TEAMの木」の根元には、個人のめあてを掲示し、木の葉の部分には「ONE TEAMレベル」として自分のがんばりを星で掲示し、可視化することで意欲をもって活動させるようにした。今後も、学校生活における様々な場面において、個人のめあてを立て、実践を積み重ねていく。



図3 「ONE TEAMの木」

5 考察

2学期の学級活動(「運動会をふり返ろう」)の実践では、「ONE TEAMカード」を活用したことで授業に意欲的に取り組む姿がみられた。互いの努力や貢献を認め合う活動を取り入れることで、互いを称賛し合う活動が活性化し、自己有用感を高めることにつながった。これは、友達から「ONE TEAMカード」のエールを書いてもらうことで、学級目標の達成に向けた児童のやる気や頑張ろうとする気持ちが向上したためと考えられる。



図4 「ONE TEAMカード」の エールを伝え合う様子

また、実践や実践後の振り返りの中で「ONE TEAMで頑張っていきたい」「学級目標の達成に向けて頑張っていきたい」「みんなからエールをもらえてうれしかった」など前向きな内容が多く見られた。これは、互いの努力や貢献を認め合うエールを伝え合う活動(図4)を通して、協力して活動を行うことの達成感を味わい、自己有用感が高まったためと考えられる。その後の学級活動の「松祭りをひらこう」の場面では、児童はそれぞれ担当した屋台を企画・作製し、コミュニケーションをとりながら意欲的に活動できた。また、1学期と比べ友達との関わりが積極的になり、活動後の「ONE TEAMカード」でも、互いに認め合う心温まる具体的なエールが多く見られた。

以上のことから、学級活動の時間における、学級目標の実現を目指した個人のめあての振り返りと「ONE TEAMカード」による互いの努力や貢献を認め合う活動は、自己有用感を高めることに有効であったと考えられる。